しょうが栽培方法

植えつけ４～５月

1 栽培のポイント

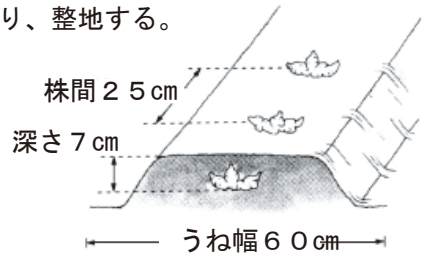
生育初期の2ヶ月は種ショウガの養分で生育するので、充実した無病の種ショウガを使う。
連作を嫌う代表的な作物なので4年以上ショウガを栽培していない畑を選ぶ。
浅根で乾燥に弱いため、保水力のある肥沃地を選び、こまめにかん水する。

2 種しょうがの選定

種ショウガは無病（特に根茎腐敗病）で、鮮黄色でつやの良いよく充実したものを10平方m当たり7kg準備する。
1片を100gに分割し、陰干しをしておく。

3 畑の準備

日当たりが良く肥沃で耕土が深い畑で、かん水のできる畑が望ましい。またショウガは生育期間が長く、生育初期2ヶ月位までは種ショウガの養分で生育するので、元肥はじっくり長く効く肥料がおすすめです。植え付け1ヵ月前に10平方ｍ当たり、堆肥20kg、苦土石灰を1.5kg施して深耕し、土づくりを十分に行っておく。2週間前に10平方ｍ当たり有機入り化成肥料1.5kgを施し、土とよく混ぜた後、幅60cmのうねをつくり、整地する。



4 植えつけ

植え付けは、畑が乾燥している場合はあらかじめかん水しておき、7～10cmの深さに溝を掘り、株間25cmで、うねと直角方向に植え付け5cm程度覆土する。覆土が厚すぎると長脚形の塊茎となり、薄すぎると乾燥しやすく塊茎の肥大が劣る。（図-2）

5 かん水

ショウガは乾燥に弱く、畑が乾燥すると根茎の肥大が著しくそこなわれるので、朝・夕の低温時にうね間にかん水する。しかし、長時間、うね間に水をためると根腐れが出やすいので排水も徹底する。

6 敷わら

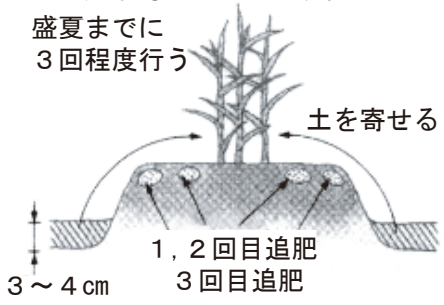
乾燥を防ぐため、敷わら（敷草）をする。とくに水の便の悪い畑では、やや厚めにしく。時期は梅雨明けを目安に、土寄せの後に行うとよい。

7 土寄せ

土寄せは、根茎の肥大と品質の向上のために重要であるが、一度に多く行うと逆効果となるため、芽が2～3本出た時と、4～5本出た時を目安にそれぞれ厚さ3～4cmずつ、2回に分けて行う

8 追　肥

追肥は6月上中旬頃、8月中旬頃の2回に分けて、それぞれ10平方ｍ当たり有機入り化成肥料500gをうねの肩に施し、通路の土でおおう。追肥は、土寄せと同時に行うと省力的である。
9月上旬ごろに3回目の追肥を行うと収量が向上しますが、生育後半まであまりチッソ肥料が効いていると、ショウガの充実が悪くなり、貯蔵性が劣ってしまいます。特に種ショウガなど貯蔵する場合、追肥は8月中旬までとします。（図-3）



9 収　穫

10月に入ると茎葉の生長は止まり、塊茎の肥大もストップしますが、塊茎は硬く引き締まり充実してきます。貯蔵するものは、霜が降りる前まで待って十分に充実させて収穫しましょう。
貯蔵適温は14～16℃、湿度は90～95%である。
18℃以上では発芽し、13℃以下では腐敗するので注意する。

ご相談・ご要望は ガーデンクワタ 電話 079-277-5665